

カナダのマイノリティ・フランコフォン 共同体におけるフランコフォン移民 受入れの推進 — 二言語主義・多文化主義を前提として —

小 松 祐 子

カナダは二言語主義と多文化主義とを併用する国である。カナダの主な建国の民族の言語であるフランス語と英語の二言語を公用語とし、平等な地位を保障している（公用語法、1969年制定、1988年改正）。また、20世紀前半以来大量に到着した移民¹⁾がもたらす多様な文化的貢献を尊重しつつ国の統合を目指す多文化主義が採用されている（多文化主義法、1988年制定²⁾）。

ケベック州外カナダのフランコフォン（フランス語系住民）共同体における移民受入れは、これら二つの主義を前提として推進されている。フランコフォン共同体は、公用語マイノリティとして連邦政府の支援の対象であると同時に、新規移民を公用語で受入れる主体であり、カナダ社会へ統合するための媒体にもなっている。また、多文化主義国家内の一つの文化共同体を成すとともに、共同体内部に移民がもたらす文化多様性を経験している。この共同体における移民受入れについて知ることは、ケベック州外のフランコフォン共同体を理解するために欠かせないだけでなく、カナダの二言語主義・多文化主義の理解においても重要である。

そこで、本稿では、カナダのマイノリティ・フランコフォン共同体におけるフランス語系移民受入れの推進について、その背景と枠組みを、連邦政府の各種政策文書やフランコフォン共同体組織の報告書をもとに確認する。また公式に発表された移民受入れの目標値と達成状況を通じ、移民受入れの現状を知る。さらに、移住プロモーション動画をもとに、移民・共同体・政府の三者にとっての理想の定住プロセスを分析する。最後に、移民がもたらす文化多様性への対応について検討する。

1. フランコフォン移民受入れ推進の背景

2021年国勢調査の結果によれば、ケベック州外でフランス語を第一公用語とするカナダ人（以下「フランコフォン」とする³⁾）は918,980人である。1961年調査で955,725人であったフランコフォン人口の減少は一見少ないように見えるかもしれないが、ケベック州外カナダの人口に占める割合は1971年の6.1%から2021年には3.3%へと低下しており、状況の深刻さが理解されるだろう。カナダ統計局は刊行物「2011年から2036年のカナダ人口予測」（Statistique Canada, 2017）のなかで、ケベック州外のフランス語人口割合が今後減少を続け、2036年には3.1%に達する可能性があるとして予測したが、2021年国勢調査の結果は予測よりも早い速度で事態が進行していることを示している。

1961年から2021年までの同じ60年間に、カナダの人口は18,238,247人から36,991,981人へと約2倍に増加した。カナダの人口増加は、出生による自然増を大幅に上回る移民の受入れにより達成されているが、近年はその傾向が顕著であり、2017-2018年のカナダの人口増加の80%は移民によるものであった（IRCC, 2020）。2020年10月に連邦政府は、2021年から2023年までの3年間に毎年約40万人の永住者を受け入れるという意欲的な目標を設定したが、この目標は2021年に達成され、40万1000人を迎え入れた。2022年11月には、パンデミック後の経済活動再開による労働力不足の問題に対処することを主な目的として、2023年から2025年に年間46万5000～50万人の移民を受け入れる新たな計画が発表された（IRCC, 2022）。

しかし、ケベック州外のフランコフォン人口は、この歴史的快挙の恩恵を受けることができていない。この国の二つの公用語のうち、新規移民の大多数は英語の知識しかもたず、入国後に仕事や日常生活で英語を使用することになる。国内フランコフォンの出生率は1960年代以降減少し、移民の増加によって十分に相殺されてこなかった。マイノリティ環境にあるフランコフォンには、異言語間結婚の増加による言語継承の減少や母語喪失の課題もあり、人口統計上の重みは低下する一方である（CLO, 2021）。フランコフォンの人口比が減少することは、フランス語の地位を脅かし、住民サービスの低下をもたらし、それがさらなる人口減につながるという悪循環をもたらす恐れがある。そこで求められるのがフランス語を話す移民受入れの推進である。

二言語主義を保障する義務を負うカナダ政府にとって、これは大きな課題

となる。制定から 50 年が経過したカナダ公用語法には現在改正手続きが進められており、法を現代の状況・条件に適応させるための検討が行われてきたが、改正方針を示す文化遺産省の報告書「フランス語と英語：カナダにおける公用語の真の平等に向けて」(Patrimoine canadien, 2021) のなかでも、マイノリティ公用語コミュニティとしてのフランコフォン共同体の強化のために、移民受入れの推進が重点課題の一つと見なされている⁴⁾。

2. フランコフォン移民受入れ推進の枠組み

2.1. 歴史的経緯

ケベック州外カナダにおけるフランス語の人口統計上の重みを維持し、カナダの二言語主義を保障するためには、フランコフォン移民の受入れを推進することが不可欠である。その認識が連邦政府とフランコフォン共同体に共有されたのは 1990 年代以降のことであった。

すでに 1969 年、「二言語二文化主義に関する王立調査委員会⁵⁾」は、その最終報告書のなかで、カナダの人口増加に占める新規移民の割合が増えることが、フランコフォン人口の減少に寄与する可能性があることを指摘していたが、当時はこの見解が注目を集めることはなかった (Boily, 2017)。デイベルヴィル・フォルティエ (D'Iberville Fortier) 公用語コミッショナーが、1988 - 1989 年の年次報告書のなかで、移民増加がフランコフォン人口の統計に与える影響に対して、連邦政府が注意を払っていないことに懸念を表明し (CLO, 1989, p. 14)、ようやく政府においてこの問題が取り上げられるようになった。

フランコフォン共同体の側では、1988 年にカナダ多文化主義法が採択されたことが、移民受入れに関する問題を認識する契機となった。ケベック州外のフランコフォンはカナダ・フランコフォン・アカディアン連盟 (FCFA) に統括される共同体組織を有し、言語の権利を守り、獲得するための努力を続けてきた。仏系カナダに由来し、民族的にも文化的にも同質性が高いことを特徴としてきたフランコフォン共同体は、この時期に多元性の問題に直面することとなる。FCFA がこの問題について検討を依頼した専門機関による報告書には、共同体の持続的発展を保障するために、新規移民の受入れを積極的に促進することの重要性が示され、そのための政策の必要性が強調されていた (Churchill & Kaprielian-Churchill, 1991, pp. 100-103)。

こうしてフランコフォン共同体は 1990 年代に連邦政府へ積極的な働きか

けを行い、2000年以降には、政府と共同体が連携協力して、フランス語での移民受入れを推進するための取組みが開始された。

2.2. 「公用語行動計画」

カナダ連邦政府は2003年から「公用語行動計画（Plan d'action pour les langues officielles）」（文化遺産省所管）を策定し、言語二元性を推進し、マイノリティ環境にある公用語を支援するための施策を実施している。

二つの公用語に関する国民の権利を保障することは連邦政府の義務であり、とりわけ、マイノリティ環境におかれた公用語である「ケベック州での英語」と「ケベック州外でのフランス語」について政策上の配慮が求められる。しかし、前者に言語権上の困難が少ないのに対して、後者は抑圧のなかから権利を勝ち取ってきた歴史をもち、言語的不安⁶⁾のなかで権利を維持するための努力を強いられている⁷⁾。そのため政府の支援は主にケベック州外フランコフォンに向けられることとなる。

以下に引用する「2018-2023 公用語行動計画」序文にもこのことが明確に示されている。

カナダは言語的二元性の原則のもとに建国されました。この原則は連邦の中心に置かれ、フランス語話者と英語話者のカナダ人が協力してこの国を繁栄させるといふ決意を反映するものです。そのため、すべてのカナダ人の言語の権利は、憲法、カナダ権利自由憲章、公用語法によって保障されています。私たち（カナダ政府）はマイノリティ環境にある公用語コミュニティの活力を支え、彼らのカナダへの貢献を称えます。そして、我が国の誇りの源であるカナダのフランコフォニーを支援するために、政府はさらなる努力をする必要があると考えています。（Patrimoine canadien, 2018, p. 8）

こうして、行動計画に提示される政府の施策と予算の大部分は、マイノリティ環境でのフランス語推進に充てられることとなる。「公用語行動計画」はこれまで2003年から4度の5か年計画が実施されてきた⁸⁾。過去4期の行動計画のいずれにおいても、フランコフォン共同体への移民受入れ推進が重点項目として挙げられている。とりわけ第4期計画（2018-2023）（予算総額5億ドル）では、フランコフォン移民受入れに関する予算が新たに4,080万ドル追加された。この予算は、後述する「フランコフォンによる、フランコフォンのための」移民受入れ活動の運営・実施に充てられている。

2.3. 「フランコフォン移民受入れ戦略」

カナダ移民・難民・市民権省（IRCC : Immigration, Réfugiés et Citoyenneté Canada）は、2019年に「2018-2023 公用語行動計画」と連動する「フランコフォン移民に関する戦略（Stratégie en matière d’immigration francophone）」

（IRCC, 2019）を発表し、以下の3つの目標を掲げた。1) ケベック州外カナダへのフランコフォン移民を増やし、2023年までに4.4%という目標を達成する（この目標については次章で扱う）。2) フランコフォン新規移民の統合と保持の成功を支援する。3) フランコフォン共同体の能力を強化する。これらの目標を達成するために、IRCCが行う活動は、主に「募集」、「選抜」、「定住サービス」の3領域に分けられる⁹⁾。

移民候補者の「募集」については、2003年以来毎年、パリや他のフランス語圏都市において、フランコフォン向けのカナダ移住促進フォーラム« Destination Canada »¹⁰⁾を開催し、州・準州やフランコフォン共同体の協力のもと、移民候補者へ情報を提供している。またフランコフォン移民候補者を対象としたWebコンテンツを作成し、デジタル広報キャンペーンを展開している¹¹⁾。

移民の「選抜」については、エクスプレス・エントリー・システム¹²⁾においてフランス語習熟度に追加ポイントを付与し、フランコフォンが移民として採用されることを有利にしている（2017年6月）。また、フランス語能力評価機関¹³⁾を追加指定（2018年秋）することで、移民候補者がフランス語テストを受験するための機会を増やす措置も行っている。このほか、2016年6月には、フランコフォン・モビリティ・プログラム（Mobilité francophone）を開始し、カナダ国内にすでに滞在するフランコフォン（または英仏バイリンガル）の外国人労働者をケベック州外で雇用する場合の手続きを簡素化した。

移民選抜においては、「州推薦プログラム（Programme des candidats des provinces）」により、州・準州が推薦する移民候補者を優遇する措置もとられている。2018年3月に「ケベック州外のフランコフォン移民を増やすための連邦・州・準州の行動計画」（IRCC, 2018）を策定し、州・準州政府との連携施策のもとでフランコフォン移民の推進に努めている。

移民の「定住」については、「フランコフォンによる、フランコフォンのための（par et pour les francophones）」サービスの提供が掲げられている。つまり、移民が到着する前から市民権取得にいたるまでを体系的に支援するための「フランコフォン統合経路（Parcours d’intégration francophone）」をIRCC

が構築し、フランコフォン共同体が主体となって定住のためのサービスを提供している。また、空港受入れサービスポイントの設置、言語研修の提供を増やす、共同体イニシアティブによる新規移民統合のための地域スペース開設支援などにより、フランコフォン移民定住サービスを強化している。

2.4. 「フランコフォンによる、フランコフォンのための」移民受入れ推進

IRCC の対話者として、カナダのマイノリティ・フランコフォン共同体を代表し、フランコフォン移民の誘致や定住に関する戦略と政策に関する行動を行うのが FCFA (カナダ・フランコフォン・アカディアン連盟) である。9 州・3 準州の領土別組織と部門別全国組織、計 21 組織から成る連盟体である FCFA は、「カナダでマイノリティ環境に暮らすフランコフォンの権利と利益を守り推進する¹⁴⁾」ことを使命に掲げている。これまでカナダ権利自由憲章の制定 (1983 年) や公用語法改正 (1988 年) にあたりマイノリティ・フランコフォンの権利擁護のために働いてきた FCFA は、2000 年以降はフランコフォン移民の推進を優先課題としてきた。

FCFA はまず、市民権・移民省 (CIC、現在の IRCC) とフランコフォン共同体とが協力して移民推進の戦略的方向性を検討するための合同委員会の設置を連邦政府へ要請し、2001 年に「カナダ市民権・移民省とマイノリティ環境のフランコフォン共同体による合同委員会 (Comité CIC-CFSM : Comité directeur Citoyenneté et Immigration Canada – Communautés francophones en situation minoritaire)」が発足した¹⁵⁾。同委員会は 2006 年に「マイノリティ環境にあるフランコフォン共同体への移住を促進するための戦略計画 (Plan stratégique pour favoriser l'immigration au sein des communautés francophones en situation minoritaire)」¹⁶⁾を策定し、移民受入れ数増加と統合強化、共同体の受入れキャパシティの充実を目標として掲げた。

この戦略計画を受け、2007 年に州・準州ごとに「フランコフォン移民ネットワーク (RIF : Réseaux en immigration francophone)」が設置された¹⁷⁾。ネットワークのメンバーとパートナーには、教育委員会、大学、医療サービス、文化センター、雇用支援サービス、経済開発組織、州・準州政府、地方自治体などが含まれる。RIF は「フランコフォンによる、フランコフォンのための」移民向けサービスの中核を担う組織であり、IRCC から資金を提供され、FCFA の監督のもとに、移民受入れサービスの全般 (プロモーション、リクルート、受入れ、統合支援) にわたる充実した活動を展開している。

「2018-2023 公用語行動計画」により追加された予算を活用して、現在は RIF 内で、「歓迎するコミュニティ (Communautés accueillantes)」プログラムが実施されている。全国から 14 の自治体が選定され、フランコフォン移民の受入れと定住のためのサービスが強化されている¹⁸⁾。

FCFA はこのほか、フランコフォン移民についての情報を統括する Web サイト (www.immigrationfrancophone.ca) を運営し、フランコフォン移民に関する年 2 回の全国会議、年に 1 度の「全国フランコフォン移民週間」、年 1 回のシンポジウム (研究者、地域社会、政府が移民と多様性に関する現在の問題について話し合うための会合の場) などのイベントを開催し、国内外のさまざまなパートナーとの協力を主導している。

さらに、FCFA は 2018 年に政府の「公用語計画」に対応する「フランコフォン移民に関する共同体戦略計画 2018-2023」(FCFA, 2018) を発表し、共同体の移民受入れ推進の意欲を再確認するとともに、「プロモーション/リクルート/受入れ/定住/統合と保持」の 5 つの連続体として移民の定住を促進することを示している。2022 年には報告書「フランコフォン移民受入れ目標に関する検討: 総括・課題・行動方針」(FCFA, 2022) を発表し、フランコフォン移民受入れ目標の達成に向けて、政府へ提言を行った。

3. フランコフォン移民受入れの目標と実態

3.1. フランコフォン移民受入れ目標

連邦政府は 20 年前から、ケベック州外へのフランコフォン移民受入れを、移民受入れ全体の 4.4% とする目標を掲げてきた。この値は、前述の合同委員会 Comité CIC-CFSM が策定した「マイノリティ・フランコフォン共同体への移民を促進するための戦略枠組み」(2003 年) のなかで政府と共同体の合意のもとに設定されたもので、2001 年の国勢調査で 4.4% であったケベック州外のフランコフォンの人口割合を維持することを目的としていた。目標値が設定された 2003 年当時の受入れ実績は (当時のフランコフォン移民定義にもとづき) 3.4% であり、この割合を 2008 年までに 4.4% に引き上げることが目指された。しかし、2006 年の合同委員会の検討により目標達成期限は 2023 年へと 15 年間延期された。

この延期の背景には、「フランコフォン移民 (immigrant d'expression française)」の定義の問題があり、この定義は 2006 年と 2018 年の二度にわたり以下のように変更されている。

カナダ移民省 (IRCC) による「フランコフォン移民」の定義

2003年：母語がフランス語であるか、フランス語の知識がある移民。
2006年：母語がフランス語であるか、フランス語または英語以外の母語を持つ場合にはカナダでの第一公用語がフランス語である移民。
2018年：カナダでの第一公用語がフランス語である移民。

(CLO, 2021, p. 36 より抜粋)

2003年の定義では、フランス語非母語者については、もう一つの公用語である英語の知識を問わず、「フランス語の知識がある移民」が「フランコフォン移民」とされていた。この定義にもとづき入国時にフランコフォンと数えられる移民は、移住後に英語使用者となる恐れがあり、フランコフォン移民施策の成果が過大評価される恐れがあることが指摘された。これを受け2006年に採用された定義では、フランス語非母語者の場合には英語ではなくフランス語を第一公用語とすることが条件として明示された。さらに2016年には、母語を問わない定義に変更されたが、これには移民の受入れが進み第三言語母語者が増大していることを受け、カナダの言語統計において、伝統的に指標として用いられてきた「母語」よりも、「第一公用語」が重視される傾向が強まっていることがその理由である (CLO, 2021)。

2006年の定義変更を受け、新たな定義にもとづく同年の受入れ実績は1.3%にとどまった。この差を埋めるためには15年を要するというのが、統計データにもとづく合同委員会の判断であり、目標達成期限は2023年へと延期されたのである。

3.2. フランコフォン移民受入れ目標の達成

2006年の目標設定以来、さまざまな措置やイニシアチブにもかかわらず、フランコフォン移民の受入れ割合は表1に見られるように1%台を推移し、さらなる努力を要することが幾度となく指摘されてきた。しかし、2018年に移民促進キャンペーン「*L'immigration, ça compte*」¹⁹⁾が開始され、2019年には2.82%への顕著な増加が見られた。2020年にはCovid-19の影響でカナダ全体の移民入国数が減じるなか、フランコフォン移民の割合は初めて3%台後半を記録した。2021年には、パンデミックによる規制が解除され全体の移民入国数が増えたため、フランコフォンの割合は再び1%台に戻った。ところが、2023年1月23日のプレスリリースで、IRCCは、2022年にカナダが目標としていた新規移民40万人を受入れ、フランコフォン移民につい

でも 4.4%の目標を達成したことを発表したのである (IRCC, 2023a)。

表 1：フランコフォン新規移民（永住者）がケベック州外カナダの新規移民に占める割合と実数の推移 (IRCC, 2023a)

2006 : 1.38 % (2857)	2012 : 1.80 % (3652)	2018 : 1.82 % (4922)
2007 : 1.56 % (2985)	2013 : 1.78 % (3696)	2019 : 2.82 % (8470)
2008 : 1.58 % (3192)	2014 : 1.44 % (3033)	2020 : 3.61 % (5756)
2009 : 1.58 % (3197)	2015 : 1.34 % (2995)	2021 : 1.95 % (6949)
2010 : 1.53 % (3462)	2016 : 1.61 % (3910)	2022 : 4.44 % (16371)
2011 : 1.82 % (3593)	2017 : 1.77 % (4141)	

短期間にこのような驚異的成果が得られた背景として、公式報道では触れられないが、IRCC が 2021 年 2 月に過去に例を見ない記録的な数のエクスプレス・エントリーの招待を発行したことが伝えられている²⁰⁾。移民審査には招待後半年以上を要すると言われており、2021 年の招待数増加が 2022 年の入国者数の記録的な増加につながったものと考えられる。数値上の目標は達成されたが、入国者数急増に伴う移民定住サービス提供の困難が予想され、また増加が一時的なものに終わる恐れもあるため、今後の状況と推移を注意して見守る必要がある。

シヨン・フレイザー (Sean Fraser) IRCC 大臣はプレスリリースにあたり、「この目標を達成することにより、カナダは、フランコフォンのマイノリティ・コミュニティの活力を強化するための関与と支援を証明した」と政府の努力を強調し、「これらの新規移民がフランス語の影響力に貢献し、全国の労働力不足を改善する」効果があると述べている。さらに、目標達成は「州や準州、フランコフォン関係者との緊密な協力なしには不可能であった」とし、今後も努力を継続することを約束した (IRCC, 2023a)。

このプレスリリースを受けて FCFA は公式声明 (FCFA, 2023) を発表し、IRCC のリーダーシップに感謝するとともに、「今日、我々はベースキャンプに到達し、我々の共同体の人口統計上の重みを 2001 年以前の状態に戻すための新しいより高い目標を設定することによって、頂上を目指す準備が整った」として、次なる目標の設定を求めている。FCFA は 2022 年に作成した報告書 (FCFA, 2022) のなかで、専門家による詳細なデータ分析を 69 頁にわたって示し、フランコフォンの人口統計上の重みを確保するためには、移民受入れ

目標を再調整することが必要であるとして、2024年の12%からはじめて2036年に20%に達するまで徐々に増加させることを連邦政府へ推奨していた。

3.3. フランコフォン移民受入れの現状

IRCCが公開する最新データ²¹⁾によれば、ケベック州外でフランコフォン移民が全移民に占める割合は、2015年から2022年に1.34%から4.44%へと改善され、実数も2995人から16370人へと5.4倍の増加を記録した(表2)。

表2：ケベック州外カナダへのフランコフォン永住者入国数(州・準州別)(単位：人)
IRCC (2023b)をもとに作成

州・準州	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ニューファンドランド・ラブラドール	15	15	25	30	40	20	25	70
プリンス・エドワード・アイランド	5	15	20	15	20	20	20	60
ノバスコシア	30	55	45	45	115	160	180	795
ニューブランズウィック	195	260	320	420	875	650	790	2 315
オンタリオ	1 620	2 070	2 265	2 950	5 245	3 390	3 905	9 760
マニトバ	210	295	245	200	610	410	330	800
サスカチュワン	115	120	105	110	145	85	85	175
アルバータ	495	585	570	520	600	475	725	1 510
ブリティッシュ・コロンビア	300	480	525	615	790	525	825	830
ユーコン(準州)	5	--	10	15	15	5	35	25
ノースウエスト(準州)	--	--	5	5	10	5	15	15
ヌナブト(準州)	0	--	--	0	5	--	10	15
合計	2 995	3 910	4 140	4 920	8 470	5 755	6 950	16 370
移民全体に占める割合	1.34%	1.61%	1.77%	1.82%	2.82%	3.61%	1.95%	4.44%

フランコフォン移民の受入れ数が圧倒的に多いのはオンタリオ州であるが、ニューブランズウィック州、ノバスコシア州といった東部の州で受入れ努力の成果が認められる²²⁾。経済が順調なアルバータ州での受入れが進んでいることがわかる。

表3：ケベック州外カナダへのフランコフォン永住者入国数(都市圏別)(単位：人)
IRCC (2023b)をもとに作成

都市圏	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ハリファックス(ノバスコシア州)	20	50	40	40	105	155	165	735
モンクトン(ニューブランズウィック州)	125	130	175	285	620	450	560	1 550
オタワ(オンタリオ州)	565	675	715	1 055	2 115	1 525	1 745	5 620
トロント(オンタリオ州)	825	1 090	1 230	1 560	2 625	1 550	1 705	3 045
ウィニペグ(マニトバ州)	200	270	215	185	580	395	310	725
カルガリー(アルバータ州)	200	245	230	220	235	215	290	720
バンクーバー(BC州)	240	380	440	480	655	425	615	650

移民の目的地を都市圏別にみると(表3)、オタワ、トロント、モンクトンを目指す移民が多く、過去3年間でトロントとオタワの順位が入れ替わっていることが注目される。これらの都市は4章で紹介する動画に登場する移

民の定住地とほぼ一致している。

表 4：ケベック州外カナダへのフランコフォン永住者の出身国、上位 5 か国（単位：人）
IRCC（2023b）をもとに作成

2015		2021		2022	
フランス	830	フランス	1990	カメルーン	2530
コンゴ民主共和国	420	モロッコ	565	モロッコ	2420
ハイチ	245	ブルンジ	520	アルジェリア	2030
ブルンジ	165	コンゴ民主共和国	505	フランス	1690
カメルーン	160	カメルーン	400	コートジボワール	1235
Total	2995	Total	6950	Total	16370

フランコフォン移民の出身国（表 4）は、2021 年まではフランスが第 1 位を占めていたが、2022 年にはじめて 4 位に転落した。アフリカ、北アフリカ出身者が大きく数を増やしたためである。上位 5 か国には含まれないがチュニジアも人口規模に比して多くの移住者を数える（2022 年に 845 人）。IRCC が移住促進イベント「Destination Canada」を北アフリカのフランス語圏都市で開催していることの効果が見られる。アフリカでは、コンゴ民主共和国、カメルーン、コートジボワールのほか、トーゴ、中央アフリカ共和国などの中央アフリカ出身者が多い。歴史的にフランス語圏カナダ（とくにケベック州）への移住者が多いハイチの出身者は減じておらず、2022 年には 565 人である。

民族文化的多様性については、国籍からだけでは判断できないことに注意が必要である（たとえばフランス国籍者には多くの移民 2 世、3 世が含まれ、民族文化的に多様である）。実際、カナダのフランコフォンはますます多様化しており、2016 年の国勢調査では、カナダのフランコフォンの 21.9% が移民出身であり、これらの移民出身者の 22% がカナダ統計局の言う「目に見えるマイノリティ（minorité visible）」であることが明らかになっている（FCFA, 2021）。この傾向に対処するために FCFA では文化多様性を包摂するためのガイドを作成していることを 5 章で紹介する。

移民の定着については、カナダは先進国でもっとも移民帰化率の高い国として知られている。カナダ統計局のデータ（Statistique Canada, 2022b）によれば、帰化率（カナダ国籍を申請する資格のある移民に占める国籍取得者の

割合)は2021年に83.1%と高い値を示しているが、2011年87.8%、2016年85.8%と低下傾向が見られ、永住者受入れの増加とともに、帰化率は低下しているものと推測される。

4. 理想のフランコフォン移民定住プロセス

以下では、これまで確認してきた連邦政府と共同体の取組みやフランコフォン移民受入れの実態が、フランコフォン移民プロモーションを目的としてIRCCが作成・公開している動画のなかに、どのように反映され、またアピールされているかを具体的に分析し、登場人物のプロフィールや発言から、フランコフォン移民の理想の定住プロセスを検討する。

「カナダでのフランス語での生活、私のプロジェクト (Mon projet de vie en français au Canada)²³⁾」と題された9分26秒の動画(2019年作成)には、7人のフランコフォン移民が登場し、カナダ移住の経験を語っている。彼らの証言を通じて、空港到着から、職探し・子どもの教育・地域社会への統合を経て、市民権(国籍)取得に至るまでの、移民の「定住プロセス」が描き出されている。

最初に登場するのは、アルジェリア出身でウィニペグ在住の男性である。イスラムのスカーフを着用した妻と3人の子どもたちを連れ入国ゲートを通過する彼を、現地のフランコフォン・スタッフが温かく迎える場面が映し出され、男性は満面の笑みで「成功を確信している」と述べる。二人目のガボン出身バンクーバー在住の若い女性は、3か月前に到着して以来、地域のフランコフォン共同体のサービスを利用し、銀行口座開設、住居探し、職探しなどに多くの助けを得たこと、多数の知人を紹介してもらったことを語っている。三番目に登場するのはブルンジ出身、オタワ在住の一家で、子どもの教育について父親が語っている。フランス語学校に通う彼の息子は、登校初日から専任スタッフにより学業と学校生活の両面にわたる支援を受け完全に統合を果たし、2年が経過した今では新しく到着する移民の子どもたちを助けるまでになっている。四人目はフランス出身でバンクーバー在住の女性である。フランコフォン向け授業料助成を利用し英語や法律の学校に通い、キャリアアップを果たしたことが語られる。五人目の女性も職探しについて語っている。ベルギー出身でハリファックス在住のこの若い女性は、英語環境に戸惑いつつも、地域の専門家スタッフから英語での履歴書作成や面接対策の指導を受け、希望の職に就くことができた。六人目のカメルーン出身トロン

ト在住の男性は妻と子ども3人とともに2年前に移住し、現在は完全に共同体への統合を果たしている。到着時、空港での出迎えスタッフが「あなたの国へようこそ (Bienvenue chez vous)」と言ってくれたことが嬉しい驚きだったが、現在まさに「自分の国 (chez nous)」にしていると感じていると語り、オープンな精神をもって人々と接することが何よりも大切であると語っている。最後に登場するのは、フランス出身でウィニペグ在住のアフリカ系男性である。6年前に移住した彼が、家族(妻と5人の子どもたち)とそろって正装し、市民権授与のセレモニーに出席する様子が映し出される。「大変なことはあったけれども、どこにいてもつらいことはある。カナダに来たことを後悔していない」と語る彼は、最後に「この国の成功のために尽くしたい」と言い、カナダ国旗を掲げ、国歌を斉唱するセレモニーの場面で動画は終了する。

このように、このプロモーション動画では、フランコフォン移民の理想的な定住プロセスが、生き生きとした映像と証言によって紹介されている。共同体が提供するサービスが効果的に活用されるエピソードが至るところに織り込まれ、そのような支援を受けて新規移民が重要な移住のステップを乗り越え、共同体への統合を果たし、カナダに貢献する人材となるという、移民、共同体、国のいずれにとっても「成功のストーリー」が演出されている。登場する証言者の出身地には、アフリカ、マグレブ、ヨーロッパ(フランス・ベルギー)という、実際の主なフランコフォン移民供給地域がバランスよく配され、定住先の都市も統計上のデータに対応している。アフリカ系が4名(うち1名はフランス国籍)、アラブ系1名、ヨーロッパ系2名という人種構成や宗教的マイノリティ(イスラム)への配慮も明らかである。家族構成には単身者から大家族までが登場し、誘致のターゲットとなるのが、労働人材として貢献が期待される主に20~30代の若者であることがわかる。証言者の職業は意図的に明かされないものと推測される。移住成功のカギとして、チャレンジ精神とオープンな態度の重要性が示され、ホスト社会への帰属意識(「自分の国」と感じる)と社会に能動的に参加するシティズンシップ(学校で他の子どもを助ける、国のために尽くす)をもつ理想の移民の姿がアピールされている。最後に映し出される国民統合の象徴としての国旗と国歌斉唱は、移民が共同体への統合の末に、カナダ人としてのアイデンティティを獲得することを示唆するものと考えられる。

5. 文化多様性の統合と包摂

次に、IRCC が作成した別の動画をもとに、移民がもたらす文化多様性の統合について検討を行う。2014 年に作成された「*Vivre en français au Canada*」という動画シリーズには計 5 本の短い動画（各 2 分程度）が収められているが、そのうちの一つ「フランコフォン共同体での受入れ (*L'accueil dans les communautés francophones*)²⁴⁾」と題された動画に登場する移住者は、統合成功のための心得を以下のように語っている。

自分のなかに閉じこもってはいけません。新しい環境では、最初は戸惑うのが当然です。それからここにずっと住んでいる人たちと知り合って、しばらくの間は彼らの文化や表現や現実について知るのを助けてもらうことになります。そしてその後は、今度は私たちの文化や表現や考え方を彼らに教えることができます。それは良い結果をもたらします。(マリ出身、マニトバ州在住、学生組織代表)

新たに到着した移民の人々はまず受入れ社会の文化を学び、適応することが必要である。しかしそれにとどまらず、その後は自らが、ホスト社会に新たな文化的多様性をもたらすことが善とされているのである。カナダにおいても過去にはヨーロッパ系移民が歓迎され、移民を文化的に「同化 (*assimilation*)」することが当然と考えられた時代があった。しかし、多文化主義を採用して以来、移民のもたらす多様な文化を豊かさにとらえ、それらを尊重しながら「統合 (*intégration*)」することが目指されてきた。そして、移民の統合が進む現在、目標とされるのは「包摂 (*inclusion*)」である。

このことは、FCFA が作成した文化多様性包摂のためのガイド (FCFA, 2021) の序文に、次のように宣言されている。

2000 年代初頭以来、フランコフォンとアカディアンの共同体は世界に開かれ、移民の人々を歓迎し、統合してきました。それから 20 年経った今、文化多様性はコミュニティの不可欠な部分であり、差異のなかで繁栄したいと考えています。これは、受容と統合を超えて、包摂に焦点を当てることを意味します。(FCFA, 2021, p. 3)

ガイドブックではこれに続けて、「統合」が「平等」を原則とし、移民のもたらす文化を尊重するにとどまっていたのに対して、「包摂」では「公平性」の原則にもとづき、移民の人々が「受入先のコミュニティ内に十分な地位を占める」(p. 4) ことが解説されている。統合と包摂の違いが図で示されているが、そこには異なる色のボールが全体のなかで偏って箱に収められている

状態と全体に混ざり合っ取められている状態とが対比されている。文化的差異を乗り越え、「誰もが自分の居場所を確保できるようにすること」を目指し、共同体として真に一体となることが目指されていることが理解される。

フランコフォン共同体において包摂の基盤をなすのは、フランス語という同じ言語を共有するという事実である。IRCC の同じシリーズの別の動画「カナダのフランコフォニーとはどのようなものか (Que représente la francophonie canadienne ?)²⁵⁾」のなかで、移住者の一人が以下のように語っている。

私にとってカナダのフランコフォニーは家族のようなものです。私はフランス語圏アフリカ出身ですが、ここに来た時、他の州に行っても、私がフレール・ジャック (フランス語圏でよく知られているフランスの民謡) を歌いだすと、一緒に歌ってくれる人たちがいることがわかったのです。とても感動しました。これは大きな家族です。さまざまな訛り、さまざまな話し方で、国の端から端まで、フランス語を多様に彩っています。それがカナダのフランコフォニーなのです。(セネガル出身、ケベック州在住、生物学者・アーティスト²⁶⁾)

彼はケベック州定住者として、他州フランコフォンとの連帯を語っているが、そこには言語内の多様性をありのままに受け入れ、フランス語という共通の基盤のもとに集う人々の姿が、「家族」というもっとも根源的で絆の強い社会集団を指すことばで表されている。

フランス語の多様性に関する配慮は、FCFA のガイドブックのなかでも言及されている。「移民」を表す単語として、カナダのフランス語では一般に *immigrants* という語が好まれ、使用されている。しかし、他のフランス語圏地域では、*immigrés/émigrés*、*nouveaux arrivants*、*personnes issues d'immigration* などの単語が使用されることが示され、地域によりこれらの単語が異なるニュアンスで受けとめられることに注意が喚起されている。

このように、言語使用からさまざまな文化慣行にいたるまでの差異を認識し受け入れ、異なる経験、発想、意見によって共同体を豊かにする多文化共生を目指すのが、今日のフランコフォン共同体であり、フランス語という共通の基盤の上に人々の連帯が築かれ、多様性の包摂が志向されていることが理解されるのである。

6. 終わりに

本稿では、カナダの公用語マイノリティとしてのフランコフォン共同体における移民受入れの推進について、その背景、枠組み、実態を確認したのち、共同体による移民の文化的統合を検討した。人口統計上の衰退傾向が続くケベック州外のフランコフォン共同体にとって、フランス語を話す移民を受け入れることは、共同体の存続にかかわる喫緊の課題である。二言語主義にもとづき公用語共同体を支える連邦政府は、移民受入れの当面の数値目標を達成したが、今後も一層の努力が求められている。連邦政府とフランコフォン共同体は、さまざまなパートナーと連携協力しながら、募集にはじまり社会的な統合にいたるまでの連続体として移民の定住を支援するサービスを提供し、移民受入れ推進に努めていることが確認された。

移民受入れが進み、共同体内の文化的多様性がますます増加するなか、フランコフォン共同体は、新規参加者を「統合」するにとどまらず、さらに進んだ「包摂」を目指していることも理解された。彼らは、フランス語という共通の言語を包摂の基盤とし、言語内の差異や文化多様性をありのままに認め、互いに受け入れることで、共同体をさらに豊かにしようとしている。カナダ国内でマイノリティの立場におかれたフランコフォン共同体のなかで、文化的マイノリティである移民の人々には、二重の周辺化の危険がある。しかし、二言語主義・多文化主義にもとづき、フランコフォン共同体に歓迎される彼らは、言語を基盤として文化的に包摂されることで、カナダへの帰属を果たすことができるのである。このような言語共同体を前提とした移民の受入れのあり方やカナダの多文化主義については、今後さらに詳しく慎重な検討が必要であろう。

注

- 1) カナダ統計局の定義によれば、「移民とは、受け入れられた移住者または永住者、あるいは過去にそうであった者を指す。移民当局からカナダに永住する権利を付与された者である。帰化によりカナダ国籍を取得した移民もこのグループに含まれる。」(https://www23.statcan.gc.ca/imdb/p3Var_f.pl?Function=Unit&Id=85107)
- 2) 法律制定に先立ち、1971年にP. トルドー（Pierre Elliott Trudeau）首相により「多文化主義政策」の採用が宣言された。
- 3) 本稿では異なる母語をもつ移民について扱うため、母語ではなく、第一公用語を基準として「フランコフォン」の語を使用する。「フランコフォン移民」の定義については本文で後述する。

- 4) 「提案された改正案は、マイノリティ環境にある公用語コミュニティについて、その制度、CBC/Radio-Canada（カナダ公共放送）の保護、フランコフォン移民の重要性に焦点を当てることにより、コミュニティの発展を支援する。」(Patrimoine canadien, 2021, p. 30)
- 5) ケベック州の「静かな革命」の影響を受け、1963年ピアソン首相（Lester Bowles Pearson）により、カナダにおける二言語二文化の併存に伴う諸問題を調査することを目的として「二言語・二文化主義に関する王立調査委員会（Commission royale d'enquête sur le bilinguisme et le biculturalisme）」が設置された。委員会報告を受け、1969年に英語とフランス語をカナダの公用語とする公用語法が採択された。
- 6) マイノリティ環境にあるフランコフォンの言語不安については小松（2023）を参照。
- 7) ケベック州の英語共同体とケベック州外のフランス語共同体のアシメトリーな状況については、小松（2015）を参照。
- 8) これまでに策定されてきた公用語行動計画は以下のとおりである。第1期 2003-2008 : Le prochain acte : un nouvel élan pour la dualité linguistique canadienne（次の行動:カナダの言語二元性のための新たな飛躍）／第2期 2008-2013 : Agir pour l'avenir（将来のために行動する）／第3期 2013-2018 : Éducation, immigration, communautés（教育・移民・共同体）／第4期 2018-2023 : Investir dans notre avenir（将来へ投資する）。ただし、第2期、第3期については、「行動計画 plan d'action」ではなく、「ロードマップ feuille de route」という名称が用いられている。第5期（2023-2028）公用語計画の内容が2023年3月に発表される予定であり、2022年5月から8月に次期計画策定のための諮問が実施された。
- 9) ここでは触れないが、IRCCはフランコフォン移民に関するデータの収集、成果測定ツールの開発、成果の体系的報告にも力を入れており、専門家による戦略チームを編成している。
- 10) 2022年には、11月16～19日にパリ、同月22～23日にラバト（モロッコ）、同月28～30日にオンラインで開催された。過去にはブリュッセル、チュニスで開催された年もある。
- 11) IRCCのサイト上で移住希望者向けコンテンツを提供している。また連邦政府の財政援助を受け、FCFAがWebポータル« Immigration Francophone au Canada » (<https://www.immigrationfrancophone.ca/>) を開設・運営している。
- 12) エクスプレス・エントリー・システムは、熟練労働者を対象に、永住権申請手続きの高速化や簡略化を目指して2015年から導入された。申請者はオンライン上でプロフィールを作成することで、1200点満点のポイントシステムによりエントリースコアが計算される。一定点数以上を獲得し選ばれた申請者に招待状が送付され、その後証明書類の提出、面接等の審査が行われる。
- 13) パリ商工会議所がカナダへの移住希望者向けに実施する TEF Canada（カナダ・

フランス語評価テスト)に加え、フランス国際教育研究センター (France Éducation International) が実施する TCF Canada (カナダ・フランス語能力テスト) が新たに認められた。

- 14) « La FCFA ». <https://fcfa.ca/la-fcfa/>
- 15) 2013 年に Comité IRCC-CFSM と改称された。現在も定期的な活動を続け、FCFA が共同体代表として参加している。
- 16) これに先立ち、2003 年に「マイノリティ環境にあるフランコフォン共同体への移住を促進するための戦略枠組み (Cadre stratégique pour favoriser l'immigration au sein des communautés francophones en situation minoritaire)」が策定された。
- 17) 当初 11 の RIF が設置されたが、その後移民受入れ数の多いオンタリオ州が北部、東部、南・中央部分けられ、現在その数は 13 となっている。
- 18) <https://www.immigrationfrancophone.ca/immigrer-en-francais/vivre-en-francais/communautes-francophones-accueillantes/>
- 19) <https://www.canada.ca/fr/immigration-refugies-citoyennete/campagnes/immigration-ca-compte.html>
- 20) 2021 年 2 月 23 日に 27,000 という驚くべき数の招待が発行され (過去には一度の招待数は数百件であった)、招待者のエントリー・スコア最低点は歴史的に低い 75 点 (過去最低値は 2020 年 6 月の 431 点) であったことが、民間が運営する移民情報サイトにより伝えられている (“Canada Express Entry Draw Obliterates Records With 27,332 Invites and Minimum CRS of 75cc”, September 19, 2021. <https://www.immigration.ca/canada-express-entry-draw-obliterates-records-with-27332-invites-and-minimum-crs-of-75/>)。過去の招待発行数の記録は以下で確認できる。Cohen Immigration Law, “Express Entry Draw Results”. <https://www.canadavisa.com/express-entry-invitations-to-apply-issued.html>
- 21) IRCC (2023b) を出典とする。前節 (3.2.) で参照したプレスリリース (IRCC, 2023a) と比較すると、2022 年のフランコフォン移民受入れ人数に 1 名の差がある (16370 人 / 16371 人)。なお、IRCC (2023b) には「2022 年のデータは速報値のため後日修正の可能性がある」との注記がある。
- 22) 州として二言語主義を採用するニューブランズウィック州ではフランコフォン移民受入れの州の目標値を 33% と設定している (IRCC, 2018, p. 2)。
- 23) 以下で公開されている。 <https://www.canada.ca/fr/immigration-refugies-citoyennete/nouvelles/video/mon-projet-vie-francais-canada.html>
- 24) <https://www.canada.ca/fr/immigration-refugies-citoyennete/nouvelles/video/accueil-communautes-francophones.html>
- 25) <https://www.canada.ca/fr/immigration-refugies-citoyennete/nouvelles/video/represente-francophonie-canadienne.html>
- 26) 証言者はこの動画には匿名で出演しているが、TV 出演や出版などで多彩に活

カナダのマイノリティ・フランコフォン共同体におけるフランコフォン移民受入れの推進
躍する、カナダでは有名なタレント（Boucard Diouf）である。

参考文献

- Boily, A. (2017). *Des peuples fondateurs au pluralisme : Comment, et à quel moment l'immigration et le pluralisme deviennent-ils des priorités pour les associations francophones canadiennes ?*, thèse de maîtrise, Université d'Ottawa.
- Churchill, S. et Kaprielian-Churchill I. (1991). *Les communautés francophones et acadiennes au Canada : face au pluralisme*. Ottawa: Fédération des communautés francophones et acadiennes.
- CLO : Commissariat aux langues officielles (1989). *Rapport annuel 1988-1989*. https://publications.gc.ca/collections/collection_2018/clo-ocol/sf1/SF1-1989-fra.pdf
- (2021). *Étude d'analyse statistique de la cible de 4,4% d'immigration d'expression française au sein des communautés francophones en situation minoritaire : près de 20 ans après son adoption, il est temps de faire mieux et d'en faire plus. Rapport final*. <https://www.clo-ocol.gc.ca/sites/default/files/etude-analyse-immigration-expression-francaise.pdf>
- FCFA : Fédération des communautés francophones et acadiennes (2018). *Plan stratégique communautaire en immigration francophone (2018-2023)*. https://www.immigrationfrancophone.ca/images/documents/PlanStrategiqueCommunautaire_-_immigration_francophone-2018-2023.pdf
- (2021). *Guide sur l'inclusion des personnes issues de la diversité culturelle dans les communautés francophones et acadiennes du Canada*. <https://www.canada.ca/content/dam/ircc/documents/pdf/francais/organisation/publications-guides/strategie-immigration-francophone/franco-immigr-strateg-fra.pdf>
- (2022). *Faire le point sur la cible en immigration francophone : Bilan, enjeux et pistes d'action*. https://fcfa.ca/wp-content/uploads/2022/04/2022-02_Rapport-FCFA-Sociopol-cibles.pdf
- IRCC : Immigration, Réfugiés et Citoyenneté Canada (2018). *Plan d'action Fédéral-Provincial-Territorial visant à Accroître l'immigration francophone à l'extérieur du Québec*. <https://www.canada.ca/content/dam/ircc/documents/pdf/francais/pub/plan-action.pdf>
- (2019). *Stratégie en matière d'immigration francophone*. <https://www.canada.ca/content/dam/ircc/documents/pdf/francais/organisation/publications-guides/strategie-immigration-francophone/franco-immigr-strateg-fra.pdf>
- (2020). *Rapport annuel au Parlement sur l'immigration*. <https://www.canada.ca/content/dam/ircc/migration/ircc/francais/pdf/pub/rapport-annuel-2020-fr.pdf>
- (2022). *Plan pluriannuel des niveaux d'immigration de 2023-2025 du gouvernement du Canada*. <https://www.canada.ca/content/dam/ircc/documents/pdf/francais/organisation/>

- publications-guides/annual-report-2022-fr.pdf
- (2023a). « Le Canada atteint son objectif en matière d'immigration francophone en 2022 » (Communiqué de presse).
<https://www.canada.ca/fr/immigration-refugies-citoyennete/nouvelles/2023/01/le-canada-atteint-son-objectif-en-matiere-dimmigration-francophone-en-2022.html>
- (2023b). « Résidents permanents – Mises à jour mensuelles d'IRCC ».
<https://open.canada.ca/data/fr/dataset/f7e5498e-0ad8-4417-85c9-9b8aff9b9eda>
- Patrimoine canadien (2018). *Plan d'action pour les langues officielles – 2018-2023 : Investir dans notre avenir*.
<https://www.canada.ca/content/dam/pch/documents/services/official-languages-bilingualism/official-languages-action-plan/plan-daction.pdf>
- Statistique Canada (2017). *Projections linguistiques pour le Canada, 2011 à 2036*. <https://www150.statcan.gc.ca/n1/fr/pub/89-657-x/89-657-x2017001-fra.pdf>
- (2022a). « Alors que le français et l'anglais demeurent les principales langues parlées au Canada, la diversité linguistique continue de s'accroître au pays ». <https://www150.statcan.gc.ca/n1/fr/daily-quotidien/220817/dq220817a-fra.pdf?st=KAnzvBEp>
- (2022b). « Un portrait de la citoyenneté au Canada selon le Recensement de 2021 ». <https://www12.statcan.gc.ca/census-recensement/2021/as-sa/98-200-x/2021008/98-200-x2021008-fra.pdf>
- 小松祐子 (2017). 「ケベックとカナダ他州フランコフォン共同体との関係」『ケベック研究』(日本ケベック学会) 第9号, pp. 46-58.
- (2023). 「マイノリティ環境にあるカナダ・フランコフォンの言語不安」『人文科学研究』(お茶の水女子大学) 第19巻, pp. 43-52.

※本稿で参照した URL はすべて 2023 年 2 月 27 日に最終確認した。引用文のフランス語からの日本語訳はすべて筆者による。

※本研究は JSPS 科研費 20K12368 の助成を受けている。